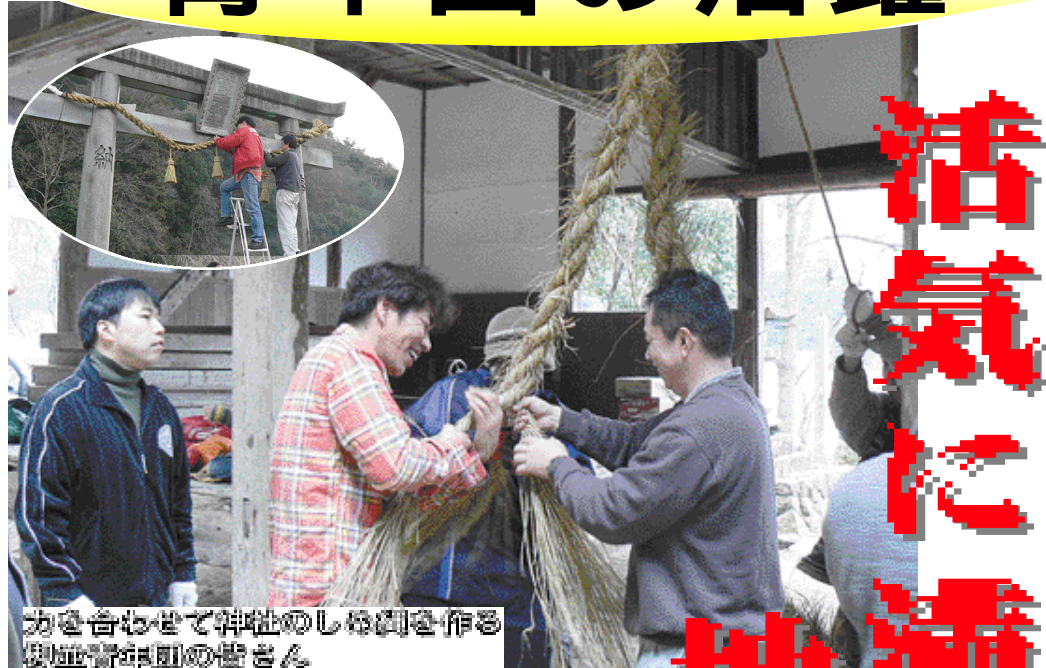


青年団の活躍



しめ縄を神社の鳥居に飾りつける様子

力を合わせて神社のしめ縄を作る 北野青年団の皆さん

活気に満ちた地域社会をめぐりながら

近年、地域の中での人と人との交流が少なくなってきたり、少子高齢化が進む中、地域における助け合いの大切さが見直されています。町内には、若い世代の力で地域コミュニティを活性化させようと熱心に活動している青年団があります。

今回は、年間を通して取材した二つの青年団の活動を報告します。

青年団の昔と今

青年団とは、地域を基盤にした自主的な若者の組織で、その起源は室町時代あるいはそれ以前にまでさかのぼることが出来ます。江戸時代には若者組・若連

中・若衆組などと呼ばれ、祭礼の準備や運営、夜まわり、出火や災害時の出勤などを行い、若者が仕事や生活技術、慣習・礼儀を学んで一人前に成長していく場として、厳しい規律が定められていました。町内に残

伝統文化の継承と支えあう地域づくりのために 北野青年団

北野青年団は、地域の活性化を目的として平成14年1月に13人の有志で結成され、現在は18歳から35歳までの男性12人女性2人で活動しています。

春と秋のクリーンアップ

また、10月に行われる秋祭を盛り上げ、地元につながる伝統文化を受け継いでいこうと努めています。北野地区の秋祭では、昭和30年頃までは障子太鼓を、その後には神輿を担いで練り歩いていたことが減ったことで、子ども神輿となり、さらに子どもの数が減り、伝統行事の存続が危うくなっています。青年団では、秋祭を活性化しようと、自分達でつ

北野青年団団長 上田宏治さんのお話

団員の年齢層は高校生から社会人まで幅広いですが、みんな仲が良く、祭などで得られる達成感が団結力を強めています。これから、地域の人達との交流を深め、より良い地域づくりのために活動し、青年団の活動を次世代に引き継いでいきたいと思います。



歩いていました。しかし、担ぎ手が減ったことで子ども神輿となり、さらに子どもの数が減り、伝統行事の存続が危うくなっています。青年団では、秋祭を活性化しようと、自分達でつ

地域に根ざした活動を 槻並青年団「槻声会」

槻並地区青年団「槻声会」は、発足して約40年になります。槻並地区の声を集めようということから、「槻声会」と名付けられ、現在は21人の若者が活動しています。

夏には、楊津小学校までの通学路の草刈りを行い、地域の子どもの安全を守る活動を行っています。そして、楊津盆おどり大会では「射的コーナー」を開き、毎年たくさんの子どもの参加を促しています。

また、自治会館や神社の草刈り、神社内の池の落ち葉などを清掃するために水の入れ替えをしたりと、地域の清掃活動にも力を入れています。

毎年10月の秋祭では、



子ども達でにぎわう射的コーナー

地域の子ども達が乗った御輿を青年団が中心となってひき、槻並地区を練り歩きます。

年末には、素盞鳴(すさのお)神社のしめ縄を会員で作ります。神社の鳥居に

飾る、長さ約5m・太さ約20cmの立派なしめ縄と、社内鳥居に飾る、長さ約3m・太さ約15cmの小さめのしめ縄の2本を作るのに10束のわらを使用します。

力を入れてしめ縄をねじる人や縄を太くするためにわらを加える人など役割を分担し、力を合わせて2時間ほどかけて作り上げます。

槻声会会長 中村賢司さんのお話

青年団で活動していると、地域の人たちももちろん、普段触れ合っていない子ども達と交流することができて楽しいです。

高齢化が進んでいますが、若い力で地域活性化を盛り上げていきたいと思います。



平成17年度には、これらの活動が、地域コミュニティ推進に貢献しているという事で、町から感謝状が贈られました。

切り出した木を削って担ぎ

棒の横棒を製作するなど力を合わせて秋祭を盛り上げています。



自主防災会での放水訓練



活気あふれる北野地区の秋祭

後編集

新年明けましておめでとうございます。今年も皆さんに楽しく読んでいただきたいと思います。今年も皆様に読んでいただきたいと思います。

今回の取材を通して、青年団の皆さんが自分達の手で地域を活性化しようとして、前向きに取り組んでいる姿がとてさわやかで、たのしく感じられました。青年団の活動が町全体に広がり、みんなで支えあう素敵な町になっていけばいいですね。【いながわ特派員】